

宝小学校だより

ななさと

宝小学校学校だより
NO23

平成28年2月22日(月)
文責 小保 一夫

子育ての目ざすところは？

2月12日(金)に低学年、15日(月)に高学年の今年度最後の授業参観と各学年ごとの委員会が行われました。たくさんの保護者の皆様方にはお忙しいところ出席いただき、ありがとうございました。

その際、学年ごとの委員会で、こんな話をさせて頂きました。

保護者のみなさんは、わが子の子育ての最優先課題、つまり子育てをしていく中で、最終的に目ざすところをどんなところにおいているのでしょうか？という質問をしました。もちろん、日々の生活の中で、「宿題はしたの？」「明日の準備は？」親は、目の前の宿題、提出物、・・・ついつい大声を出してしまいがちです。それはそれで大切なことです。そして、誰もがやらなければならないことを、できるようにしてやることも親の大切な責任の一つであると思います。

しかし、そんな中でお子さんが10年後、20年後にどのように成長しているだろうか・・・と考え、ちょっと長いスパンでお子さんの成長を見守って支援をしていくことが必要であると思います。

最終的に目ざすところは、こんなところではないでしょうか。



3年生の授業参観の様子

1. 自分の力で生きていけるように自立した生き方の基礎を身につけさせること。
2. 世の中の多くの人たちと共に生きていくために必要なルールを身につけさせること。

これは、先に生まれた者の責任であり、使命でもあると思います。わが子の生き方を最後まで見守れる親は一般的にはいません。だから、親がいなくなった後でも、人と協力しながら、自分の力で生きていく力を身につけさせる必要があるのです。わが子にこんな力を蓄えて成長させることができたならば、これこそ親が安心して自分の人生を過ごしていくための「最高」の子育てかもしれません。親の人生もまた、親だけのものですから・・・。

そこで、親としてわが子が20歳前後に社会へ出るときに、一人の社会人としてどんな力を持っていないといけないのか、どんな力をつけておくことが必要なのか。そんな見通しを持って、子どもの成長に関わっていくことが必要です。今後、ますます変化の激しい社会を生きていかなければならない子どもたちには、とても大切なことになってくると思います。

そこで、こんな二つのことを考えて子育てをしてみてもはどうでしょうか。

1つ目

たくさん成功や失敗の経験をさせて下さい。人生の岐路に立ったときに難しいと思われる道を選択する人は、これまでの経験から、自分の生き方に自信のある人、自己肯定感の高い人であるといわれています。それは、自分を振り返ったときに、自分は頑張れる、やり遂げられる・・・という自分に対する自信があるからです。もちろん、易しい道を選択しても得られる成果はあると思いますが、難しい道を選択し、達成したときに得る満足感や充実感、達成感は何にもまして大きなものがあるのではないのでしょうか。

これから、自分の進むべき道を自ら選択できる人に成長していくためにも、成功や失敗の経験、友だちと力を合わせて取り組む活動、自分でやり遂げた体験、そんな経験こそが自分自身の「自信」つながり、適切に選択できる力につながっていくのだと思います。

2つ目

日常生活の中で、子どもに決定させる場面をできるだけ作って下さい。もちろん、そのためには親は待つ努力が必要です。子どもに決定させるには、時間とエネルギーがいっぱいかかりますが、ぜひ本人に決定させ、本人が「これをやる。」と決めたなら最後まで頑張らせるという取り組みを心がけてほしいと思います。途中でいやになることもあるかもしれませんが、しかし、そんな時には、「あなたが決めたことだから、最後まで頑張ろう！」・・・と親は支援ができると思います。そんな取り組みの結果として、一つの山を越えたときに、本人は、大きな自信を得ることができるようになります。

親は決定の際、楽な方を選ぶような道へ導かない、妥協しない姿勢を持ち続けてほしいと思います。このように変化の激しい時代であるからこそ、あえて難しい道を選択する子どもを育てようではありませんか。



二分の一成人式で発表する
4年生 悠稀さん

今年も自分の心の鬼を追い払いました！

「鬼は外 福は内」



2月3日(水)の給食時に宝小の教室に鬼が現れました。子どもたちは、給食に出ていた「福豆」を鬼に向かって懸命に投げつけ、鬼をやっつけると同時に、怖い鬼に立ち向かう強い心を持ち、自分の心の中にいる「鬼」の退治もできたのではないかと思います。今年になってもう2ヶ月が過ぎましたが、子どもたちは決めた目標に向かって順調に歩んでいるのでしょうか？その目標に近づくのを妨げている「鬼」はいないのでしょうか？保護者の皆様には、子どもたちの取り組みを三日坊主で終わらせないためにも、節分という節目の機会に子どもたちの状況を再確認して、必要に応じて目標の確認や修正をお願いしたいと思います。

1年生に「自分の中にいる鬼は？」と聞いたところ、1年生といえども、たくさん鬼を抱えていました。

- ・姿勢が悪い鬼
- ・テレビばかり鬼
- ・すぐむかつく鬼
- ・口が悪い鬼
- ・好き嫌い鬼
- ・言い訳鬼
- ・したくない鬼
- ・時間守らない鬼
- ・恥ずかしがり鬼
- ・自信ない鬼
- ・注射嫌い鬼
- ・朝寝坊鬼

基本的な生活の習慣を乱す悪い鬼は、ちょっとした心の油断ですぐに出現してきてしまいます。今年一年間、鬼を寄せ付けない強い心で生活していきたいものです。



「鬼は外！」と佳凜さん 心の鬼を追い払え！ 祐さんのパンチ 参った参った！ 児童総会で発言中の陽斗さん ↓

「心のこもったあいさつ」について考えました！

2月10日(水)2・3校時に第2回児童総会を行いました。今年度の児童会のテーマは、「元気な仲間 元気なあいさつ みんなで行こう宝島」でした。児童会執行部のリーダーシップの元に6年生が中心となり、各委員会、縦割り班が全校のために頑張ってくれたことを、それぞれのリーダーが報告してくれました。

5つの宝島を目標として取り組みました！

あいさつ島	元気にあいさつができるような取り組み
なかよし島	全校が仲良く楽しく遊べるような遊びを行う取り組み
協力島	委員会活動や係活動を通して全校の協力する気持ちを育てる活動
ルール島	全校が気持ちよく生活するために進んで行動できるようになる取り組み
クリーン島	きれいな学校にするための取り組み

この取り組みは、それぞれの島の活動を通して「お宝」を見つけていくというストーリーのある活動でした。執行部や6年生が、みんなのために自分ができることをしっかりとやりとりと取り組んできた「行動力」は高く評価できるものでした。

児童総会の中で、3年生の児童は「あいさつをみんなでし合っって心があたたかくなりました。」と発言してくれました。こんな発言からもわかるように、一年間の児童会の活動が一人一人の心に響く、あたたかなのものであったということが出来ます。こんな意義ある活動に導いてくれた6年生のみなさん、本当にありがとうございました。児童総会の中では、学年ごとに一年間の自分たちの取り組みを振り返り、今後の課題も明確にすることができました。話し合いでは積極的に意見を出し合い、今年度のまとめの児童総会として意義のある時間になりました。

また、宝小学校として、日常的に高めようと取り組んできた「伝え合う力」が、こんな場面でもしっかりと発揮されていたと感じています。頑張ってきた児童会の活動は、来年度の役員を中心とした5年生以下の児童に引き継がれます。最後に、新児童会役員の子どもたちに「役員任命書」を手渡しました。

宝小の伝統というたすきをしっかりと引き継ぎ、来年度に向けて、その歩みは確実に動き始めました。



発言中の季依さん



新会長と現会長